

入学試験全般について

Q. 現役生と浪人生で、有利・不利がありますか。

A. 現役生・浪人生に関係なく、同一基準で合否判定を行いますので、有利・不利はありません。

Q. 本学試験場と学外試験場で、有利・不利がありますか。

A. 本学が実施する学外試験は、本学試験場と同一日程・同一問題で行いますので、有利・不利はありません。

Q. 併願受験をしたいと考えていますが、調査書や推薦書は何通必要ですか。

A. 一度に複数の日程・方式・学科等へ出願する場合、調査書等の出願書類はすべて1通で結構です。

Q. 再出願する場合、もう一度出願書類を提出する必要がありますか。

A. 2回目以降の出願は、前の出願で提出した書類を流用することが可能です。

Q. 出願にあたって調査書が提出できない場合は、どうすればよいですか。

A. 出願時に以下の書類を提出することにより、調査書に代えることができます。

■高等学校卒業程度認定試験合格者（見込みを含む）
文部科学省発行の「合格証明書」または「合格成績証明書」。
※ 大学入学資格検定合格者についても同様。

■出身校から調査書が発行できない者(外国の学校等卒業者など)
出身校発行の「卒業(見込み)証明書」および「成績証明書」。

※ 年数経過により成績証明書が発行できなくなった場合は、その旨を通知する証明書を代わりにご提出ください。

※ 出願書類が日本語と英語以外の言語で記載されているものには、日本語の教員等が日本語または英語に訳したものを必ず添付すること。また、翻訳文の下に翻訳者の所属機関名・役職・氏名を記入し、必ず押印(または署名)すること。

なお、出願資格等で全体の学習成績の状況を基準に設けている入試(総合型選抜／特技推薦・スポーツ文化部門／総合学科専門学科推薦)は出願できません。

Q. 出願資格における「本学が適切と認めた者」の基準は何ですか。

A. 出願資格「本学が適切と認めた者」の基準は、「通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2026年3月に修了見込みの者」および「学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者※および2026年3月31日までにこれに該当する見込みの者」です。
※の主な例は、以下の通りです。

- ① 高等学校卒業程度認定試験合格者
- ② 専修学校高等課程修了者
- ③ 外国の学校等卒業者
- ④ 在外教育施設卒業者
- ⑤ 文部科学大臣が指定した者
- ⑥ 本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者(インターナショナルスクールや民族学校の卒業者等)

なお、特技推薦・スポーツ文化部門には、基準を満たす年度の制限(2026年3月にこの基準を満たす見込みであること)があります。
いずれの選考区分においても、出願資格の詳細は各入学試験要項等で確認してください。

Q. 試験問題の解答方式は、どうなっていますか。

A. 公募推薦の「基礎テスト」、一般選抜の全科目とも、全問マーク式による解答形式です。

Q. 資格等の取得は判定に考慮されるのですか。

A. 総合学科専門学科推薦では、資格取得や検定合格などを特別点として点数化します(詳細はP25参照)。また、公募推薦、一般選抜および共通テスト利用選抜では、英語資格・検定試験で所定の資格・スコアを有する者については、当該試験の英語の得点に換算することができます。なお、これらの資格等がなくとも出願できます。

総合型選抜・学校推薦型選抜について

Q. 現役生ではありませんが、出願はできますか。

A. 総合型選抜およびすべての学校推薦型選抜(特技推薦・スポーツ文化部門を除く)に出願可能です。

Q. 総合型選抜において方式の併願・学科等の併願はできますか。

A. 方式・学科等ともに併願はできません。ただし、(小論文方式)または(探究・課外活動方式)の第2次選考出願までは、(講座参加方式)の認定を受けた学科等に出願し直すことができます。

Q. 総合型選抜の(小論文方式)と(探究・課外活動方式)はどちらで出願するのが有利ですか。

A. 有利・不利はありません。
(小論文方式)の小論文試験では学科等での学びに関連する内容が出題される場合が多いため、学科等の学びへの興味関心を強く持っている方にお勧めです。過去問題を受験生サイトに公開しています(デジタルメディア学科、ロボティクス学科、臨床工学科はサンプル問題を掲載します)。一方、(探究・課外活動方式)は、課外活動含む高校での取組みを主に評価します。そのため、アピールできることがあり、それを学科等での学びに繋げてWeb学習成果報告書を作成できる方にお勧めです。

Q. 出身校を2025年9月に卒業するため2026年3月卒業見込みとなりませんが、特技推薦・スポーツ文化部門に出願することはできますか。

A. 9月卒業などにより2025年度内に卒業する者も、出願資格としては2026年3月卒業見込みに該当する者として扱うため、特技推薦・スポーツ文化部門に出願することができます。詳細は各入学試験要項等で確認してください。

Q. 公募推薦、特技推薦・書道部門において調査書と推薦書が提出できない場合は、どうすればいいですか。

A. 調査書については、その代わりとなる書類(Q&A「出願にあたって調査書が提出できない場合は、どうすればよいですか」に記載の通り)を提出してください。なお、公募推薦・併願制(総合評価方式)、公募推薦・専願制と特技推薦・書道部門では調査書記載の全体の学習成績の状況を10倍したものを各試験の得点に加えることとしていますが、この場合は得点を算出できないため、一律30点を加算します。推薦書については、高等学校または中等教育学校を卒業した者または卒業見込みの者以外は、所属の教育機関(プライベートスクールを含む)が発行する推薦書を提出してください。

Q. 他大学と併願すると、合否判定の際、不利になりませんか。

A. 併願可となっている学校推薦型選抜においては、本学を専願でも併願でも合否判定の扱いは同じです。なお、総合型選抜((小論文方式)および(探究・課外活動方式)は第2次選考から、(講座参加方式)は出願から)、公募推薦・専願制、特技推薦・スポーツ文化部門は専願制です。
一方、児童教育学科、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科および臨床工学科では、専願制と併願制の2つの公募推薦を実施します。この場合、本学を第1志望としている人は、専願制の方が併願制よりも合格最低点が低い傾向にあるため、ぜひ専願制を受験してください。2025年度の入試結果も参考にしてください。(詳細はP39・40参照)

Q. 出願において、高等学校の全体の学習成績の状況はどれくらい必要ですか。

A. 公募推薦、特技推薦・書道部門とも、全体の学習成績の状況による基準はありません。
なお、総合型選抜、特技推薦・スポーツ文化部門、総合学科専門学科推薦はそれぞれ基準となる全体の学習成績の状況が定められていますので、出願前によく確認してください。

Q. 基礎テストの出題範囲や難易度について教えてください。

A. 基礎テストは、高等学校段階での学習の基本的な理解を問うものです。各科目とも出題範囲を限定し、問題数もやや絞って出題します。
「英語」は、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ、論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を出題範囲として基礎的な読解力を問う内容が中心です。基本単語をしっかりマスターし、基本となる文法やイディオムをきちんと理解しておけば十分対応できます。
「国語」は、「現代の国語・言語文化〈古文・漢文を除く〉」を出題範囲とし、現代文では主題や論旨が明確で平易な文章を出題します。
「数学①」については「数学Ⅰの全範囲+数学A(場合の数と確率・図形の性質)」を、「数学②」については「数学Ⅰ・Ⅱの全範囲+数学A(場合の数と確率・図形の性質)・数学B(数列)・数学C(ベクトル)」を、「数学③」については「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全範囲+数学A(場合の数と確率・図形の性質)・数学B(数列)・数学C(ベクトル・平面上の曲線と複素数平面)」を出願範囲とし、基礎的な問題を出題します。勉強する際には、解答のテクニックや公式の暗記だけではなく、概念や式の意味を正確に理解し、論理的に思考しながら問題を解く訓練をしてください。
本学受験生サイトには過去問題(解答例付)を掲載しています。7月上旬には書店でも過去問題(赤本)が販売される予定ですので、それらを参考にしてください。
なお、「数学③」は2026年度入試より新たに設定された科目のため、過去問題はありません。

Q. 基礎テストにおいて、解答する2科目はいつどのように選択するのですか。

A. 入学試験当日、試験問題を見てから解答する科目を決めることができます。ただし、全学科等英語は必須であり、学科等によっては指定の科目がありますので、注意してください。

一般選抜・共通テスト利用選抜について

Q. 総合型選抜、学校推薦型選抜で不合格になった場合、一般選抜を再受験できますか。

A. 受験できます。毎年、再チャレンジして合格を勝ち取る先輩がたくさんいます。また、一般選抜においても、さまざまな併願が可能です（P26以降参照）。

Q. 選択科目において、解答する科目はいつどのように選択するのですか。

A. 入学試験当日に試験問題を見てから解答する科目を決めることができます。全日程1科目または2科目を選択解答します。学科等によって選択できる科目が異なりますので注意してください。

Q. 合否判定の際、選考区分や科目によって基準点がありますか。

A. 基準点は一切ありません。すべて合計得点による判定です。

Q. 選択科目によって、合否判定の有利・不利はありますか。

A. 一般選抜の選択科目には、「国語」「数学①」「数学②」「数学③」「日本史」「世界史」「政治・経済」「物理」「化学」「生物」があります（選考区分および学科等により異なります）が、試験中に科目を選ぶことができます。最も得意な科目を選択し受験してください。ただし、他の学科等と併願受験している場合、併願の学科等に共通の科目を選ぶ必要がありますので、注意してください。

資格・免許の取得について

Q. 建築士の資格取得方法について教えてください。

A. 工学部建築デザイン学科の建築士試験指定科目を履修することで、受験資格を取得できます。試験は大学卒業直後に受験することができますが、試験合格後、免許登録の際には、一級建築士の場合は2～4年以上、二級建築士の場合は0～2年以上の実務経験が必要です（必要な実務経験年数は修得単位数により異なります）。将来、建築士の資格をいかした職業を希望する方は、1年次より専門科目を計画的に履修することがポイントとなります。そのほか、受験資格取得にかかわる詳細は、Webで公開する『履修の手引き』でお知らせします。

Q. 一般選抜前期A日程・B日程・C日程・後期日程での併願を考えていますが、試験問題の傾向等に違いがあるのですか。

A. 出題方針は同じです。また、試験問題の難易度についても、同レベルになるよう配慮しています。

Q. 一般選抜前期A日程・B日程の試験進行について教えてください。

A. まず1限で60分の英語の試験を受験します。2限の試験時間は、135分（前半60分・中間15分・後半60分）です。試験開始前に1科目分の解答用紙とすべての選択科目の問題冊子が配付され、2限前半の60分間で1科目を解答します。2限前半の解答終了後、3科目方式で出願した受験生以外は帰宅することができます。中間の15分間（休憩時間ではありません）で2科目目の解答用紙が配付されますので、2限後半の60分で解答してください。2科目方式に出願した受験生は、2限後半を受験することも可能です。その場合、2限前半の解答科目と2限後半の解答科目のいずれか高得点科目を採用します。ただし、2限後半から入室することはできませんので、ご注意ください。なお、共通テスト併用方式のみで出願した受験生は1限の英語のみを受験し帰宅してください（2限の受験はできません）。

Q. 共通テスト利用選抜と共通テスト併用方式は何が違いますか。

A. 共通テスト利用選抜は大学入学共通テストの科目の点数のみで合否判定をする入試です。一方、一般選抜の共通テスト併用方式は、本学独自試験の英語を受験した上で、大学入学共通テストの2科目との計3科目の得点で合否判定をする入試です。試験日・合格発表日など異なりますのでご注意ください。

Q. 発達教育学部児童教育学科で保育士資格を取得したいと考えていますが、人数制限はありますか。

A. 児童教育学科におけるコース選択は、1年次前期終了時に行います。保育士資格の取得をめざす場合は、幼児教育コース保育士養成課程（定員100名）を希望する必要があります。保育士養成課程の履修希望者が定員を上回る場合は、入学後の成績などを踏まえながら、進路選択についての面談を行うなどしてコースを決定します。なお、小学校教諭と幼稚園教諭の一種免許状の取得については、人数制限はありません。ただし、資格・免許取得のための実習科目履修にあたっては、一定の修得科目の基準をクリアしなければなりません。

Q. 公認心理師国家試験受験資格の取得方法について教えてください。

A. 公認心理師国家試験受験資格を得るには、総合心理学部総合心理学科（通信教育課程を含む）で25科目を修得した上で、大学院健康科学研究科健康科学専攻博士前期課程臨床心理学コースで11科目の修得が必要です。また省令の定めにより、学部での必要科目を履修後、大学院での学修に代え、2年以上の実務経験を積むことによっても受験資格取得が可能です。大学・大学院の学修では、臨地実習科目の履修が必要となります。なお、履修にあたっては、学部4年次に、別途公認心理師関係科目履修料（10万円の予定）が必要です。

Q. 看護学部で取得できる資格・免許について教えてください。

A. 看護学部では卒業と同時に、看護師の国家試験受験資格が取得できます。また、選択履修により、保健師国家試験受験資格・助産師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状の取得が可能です。

Q. 看護学部の学外実習に伴う費用について、補助金などがありますか。

A. 看護学部の学外実習に伴い、実習施設へ支払う実習委託費等については、全額本学が負担します。また、看護実習（主に3～4年次）で遠方の病院等で実習を行った場合、実習に伴う宿泊費や交通費などに関し、申請により本学が定める補助金を交付します。

Q. 養護教諭一種免許状の取得方法について教えてください。

A. 養護教諭は、学校内において児童や生徒の心身の健康管理と保健教育を行う専門職です。免許状取得にあたっては、看護学部の科目履修とは別に、教職課程科目と「養護実習」の履修が必要です。「養護実習」の履修については、3年次終了時に一定の成績や修得科目の基準をクリアしなければなりません。

Q. 保健師国家試験受験資格の取得方法について教えてください。

A. 保健師国家試験受験資格の取得には、「生涯健やか事業構想論」「生涯健やか事業展開実習」の履修が必要です。「生涯健やか事業展開実習」の履修については、3年次終了時点で最終の選考を行います。選考にあたっては、保健師になる強い意志と心構え、保健師としての適性などを総合的に判断します。20名を上限とし選抜します。

Q. 助産師国家試験受験資格の取得方法について教えてください。

A. 助産師国家試験受験資格の取得には、助産師関係科目（3科目）と「助産学実習」の履修が必要です。「助産学実習」の履修については、3年次終了時点で最終の選考を行います。選考にあたっては、助産師になる強い意志と心構え、助産師としての適性などを総合的に判断します。入学定員の1割を上限とし選抜します。また、履修にあたっては、別途助産師関係科目履修料（現行20万円）が必要です。なお、助産師の資格は、法律により女性のみ取得可能となっています。

Q. 健康科学部の学外実習に伴う費用について、補助金などがありますか。

A. 理学療法学科・作業療法学科・救急救命学科・臨床検査学科・臨床工学科の学外実習に伴い、実習施設へ支払う実習委託費等については、全額本学が負担します。

Q. 細胞検査士資格認定試験受験資格の取得方法について教えてください。

A. 細胞検査士資格認定試験受験資格の取得には細胞検査士基礎科目（5科目）と「細胞検査士コース」の科目の履修が必要です。「細胞検査士コース」の履修については、3年次後期に最終の選考を行います。選考にあたっては、細胞検査士になる強い意志と心構え、細胞検査士としての適性などを総合的に判断します。履修人数は15名程度を予定していますが、選考結果により毎年変わることがあります。また、履修にあたっては別途「細胞検査士コース」履修料（20万円の予定）が必要です。

受験・入学に関わる費用や奨学金制度について

Q. 入学検定料(受験料)について教えてください。

A. 35,000円です。ただし、共通テスト利用選抜前期日程・後期日程は、1つの出願の方式・学科等につき10,000円となります。また総合型選抜(小論文方式)(探究・課外活動方式)については、第1次選考出願時に15,000円、第2次選考出願時に20,000円となっています。

なお、学校推薦型選抜(専願制を除く)および一般選抜では各割引制度を利用することによって、入学検定料をおさえることができます。詳細はP14・15でご確認ください。

Q. 合格後の手続手順と入学時納付金について教えてください。

A. 入学試験に合格すると、次は入学手続です。インターネット出願システムのマイページから可否を照会し、合格の方は入学希望学科等で必ず期限までに入学金、学費等を納入し、学籍関連情報登録を行ってください。

入学手続期限は厳正なものですので、前もって確実に確認してください。2026年度の初年度納付金はP16でご確認ください。

※ 合格通知書および入学手続書類の郵送は行いません。

Q. 入学手続を完了した後、他大学への進学等を決めた場合、納付金は返還されるのですか。

A. 学費返還制度により、所定の期限(2026年3月31日)までに手続を行えば、入学金を除く入学時納付金を返還します(専願制の選考区分を除く)。詳細は、9月中旬発行予定の『2026年度入学試験要項』でご確認ください。

Q. 入試成績上位者に給付される奨学金はありますか。

A. 「S特待生制度」「特待生制度」および「大学入学共通テスト受験奨励奨学金」の3種類があります。選考対象は、一般選抜前期A日程(3科目方式)、B日程(3科目方式)の志願者と、共通テスト利用選抜前期日程(4科目方式)の志願者全員です。すでに別の入試区分で入学手続を完了した者も、再出願することで、奨学生の選考対象となります(専願制の選考区分を除く)。

また、一般選抜前期A日程(3科目方式)、B日程(3科目方式)でデジタルメディア学科、ロボティクス学科、情報工学科を志願した方を対象とした「たちばな超AI時代特待生制度」もあります(デジタルメディア学科は【理系型】での志願者が対象です)。

詳細は、9月中旬発行予定の『2026年度入学試験要項』でご確認ください。

Q. 先に合格した学科の入学手続は済んでいますが、後で合格した学科の方に入学したいのですが、可能ですか。

A. 入学手続をした合格者が、新たに合格した学科等への入学を希望する場合、すでに納入した入学時納付金を後の合格学科等の納付金に振り替えて入学することができる制度を設けています(専願制の選考区分を除く)。詳細は、9月中旬発行予定の『2026年度入学試験要項』でご確認ください。

Q. 入学後に申し込むことができる奨学金はありますか。

A. 本学入学後のガイダンス期間中(4月初旬)に、奨学金説明会を開催します。そのなかで、日本学生支援機構(高等教育の修学支援新制度を含む)について紹介します。本学独自の給付奨学金・貸与奨学金制度については、4月中旬頃を予定しています。

なお、日本学生支援機構(高等教育の修学支援新制度を含む)の奨学金は、高等学校在学中に予約することもできます。詳細は、在籍する高等学校にお問い合わせください。

Q. 留学に関する奨学金はありますか。

A. 【国際英語学部グローバルスタディーズ専攻】1年間のSAP留学を必須としており、留学期間の本学の授業料相当額を留学先の授業料に充当する「SAP奨学金」を参加者全員に給付します(本学の授業料が留学先の授業料を超える場合は、留学先の授業料相当額を給付します)。差額が発生する場合は、その部分が自己負担となりますが、成績上位者25%を対象に自己負担額を100～50%カバーする「留学先授業料支援制度」も用意していますので、経済的な負担を軽減させる留学も可能です。

【文学部、国際英語学部国際共生専攻、総合心理学部、経済学部および経営学部】

一定の条件を満たせば国際英語学部グローバルスタディーズ専攻のSAP留学プログラムに半年間参加できます。入学後の単位取得およびTOEIC テストで所定のスコア(400点)を取得することで、「SAP奨学金」を申請できます。

Q. 看護学部独自の奨学金について教えてください。

A. 入学後に申し込むことができる奨学金制度として「京都第二赤十字病院特別奨学金」「京都市看護師修学資金融資制度」「病院貸与奨学金」などがあります。

その他

Q. 高等教育の修学支援新制度の対象者ですが、入学時納付金の納入は必要ですか。

A. 京都橘大学は「高等教育の修学支援新制度」の対象校となっていますが、入学金と学費等の納入は、入学試験要項に記載の納入期日までに全額納入していただく必要があります。予約採用候補者の方は、入学後の所定の手続きにより、高等教育の修学支援新制度の奨学生として採用された場合、授業料等の支援相当額を還付します。

Q. 過去問題はどやって手にいれることができますか。

A. 本学では、受験生サイト(https://www.tachibana-u.ac.jp/admission/)に過去3年分の問題&解答例を掲載し、自由にダウンロードできるようにしています。受験生サイトでは予備校講師による科目別学習アドバイス等も公開していますので、あわせてご利用ください。なお、書店での過去問題(赤本)販売は7月上旬を予定しています。また、オープンキャンパスでは冊子の過去問題集(過去1年分掲載)を参加者に配付していますので、必要な方はぜひご参加ください。

公開している学科試験の過去問題は、受験生サイト、赤本、過去問題集とも、公募推薦と一般選抜前期A日程です。一般選抜前期B日程は一般選抜前期A日程と、一般選抜前期C日程・後期日程は公募推薦と同様の出題形式ですので、公開している過去問題を参考にしてください。2026年度入試より数学は科目名称が変更になっていますが、「数学①」は「数学ⅠA」を、「数学②」は「数学ⅠAⅡBC」をご確認ください。また、2024年度以前の過去問題は旧学習指導要領に準拠した出題範囲となっておりますので、ご注意ください。

なお、「数学③」は2026年度入試より新たに設定された科目のため、過去問題はありません。

Q. 障がいがある場合等の受験方法について教えてください。

A. 障害および慢性疾患や難病のある方で、入学試験の受験に関して、合理的配慮の提供を希望される方は、出願に先立ち、出願開始日の1か月前までを目処に本学入学部(075-574-4116)へご連絡ください。

※複数の選考区分に出願される場合は、その都度申し出ていただく必要があります。

※入学試験時の合理的配慮の提供に際して、その内容によっては、他の代替方法をご提案したり、京都(本学)試験場をご案内することがあります。

※障害の状況を把握するため、診断書や障害者手帳の写し等の提出を求めることがあります。

※大学入学共通テストにおいて「英語」でリスニングを免除された方は、本配慮申請を行うことで、共通テスト利用選抜においてリーディング100点満点を200点満点に換算します。必ず申請してください。

※入学後の修学については、別途ご相談ください。また、入学後の修学に関して、大学より情報を提供させていただくことがあります。

Q. 合格発表はどのように行われますか。

A. インターネット出願システムのマイページから可否照会を行ってください。合格通知書および入学手続案内等は郵送を行いませんのでご注意ください。入学意志のある合格者は、入学希望学科等で、必ず期日までに入学金、学費等を納入してください。また、あわせて、学籍関連情報登録を行ってください。詳細は9月中旬発行予定の『2026年度入学試験要項』でご確認ください。

Q. 書道実技試験の内容は、どのようなものですか。

A. 特技推薦・書道部門、一般選抜前期C日程の過去の出題形式は、臨書2点(漢字・かな各1点)、創作1点(漢字・かなのいずれか1点選択)、多字数書写1点(漢字・かな交じり文)です。この4点を本学が配付する清書用半紙(漢字用15枚・かな用15枚)に書いて提出するものです。過去問題については受験生サイト(https://www.tachibana-u.ac.jp/admission/)に過去3年分を掲載していますのでご確認ください(一般選抜の過去問題は「B日程」として公開されています)。

なお、試験当日には、毛筆(漢字用・かな用)・墨(墨液可)・練習用半紙(漢字用・かな用)を持参してください。硯・下敷き・文鎮・水差し・清書用半紙は本学が用意したものを使用してください。なお、試験開始までは本学が用意した備品の使用はできません。

Q. 追加合格制度はありますか。

A. 公募推薦と一般選抜で追加合格制度を設けています。具体的な方法等については、9月中旬発行予定の『2026年度入学試験要項』でご確認ください。